

令和7年度（第64回）農林水産祭

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（トップリーダー発表会）

【海と山の絆で苦難を超えて 次世代にしなやかにつなぐ】

《スケジュール》

13:30～16:00

（敬称略）

1 開 会 (13:30)

公益財団法人 日本農林漁業振興会 常務理事

小栗 邦夫

2 挨 拶

農林水産省東北農政局長

永井 春信

宮城県知事

村井 嘉浩

南三陸町長

千葉 啓

3 選賞審査報告

農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査
(明治大学農学部専任教授)

市田 知子

4 業績発表

令和7年度むらづくり部門天皇杯受賞
入谷の里山活性化協議会事務局長

阿部 忠義

・ 休 憩 (14:30～14:40) ・ ・ ・

5 ディスカッション (14:40)

(登壇者)

・コーディネーター

市田 知子 (3に同じ)

・令和7年度むらづくり部門天皇杯受賞

阿部 國博 (入谷の里山活性化協議会会长)

阿部 博之 (" 副会長)

・コメントーター

小谷 あゆみ (農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員 (農ジャーナリスト))

山内 明美 (宮城教育大学教育学部准教授)

長田 恵理子 (農林水産省東北農政局宮城県拠点地方参事官)

(内容)

・意見交換、質疑応答

・総括

6 閉 会 (16:00)

令和7年度（第64回）農林水産祭
優秀農林水産業者に係るシンポジウム

海と山の絆で苦難を超えて
次世代にしなやかにつなぐ

選賞審査報告 令和8年2月6日

農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会
主査 市田知子（明治大学専任教授）

農林水産祭むらづくり部門 選賞審査概要図

都道府県知事の推薦

- ◆各都府県(沖縄県を除く)は、優良と認められるむらづくりの事例1件を地方農政局長宛てに推薦することができる。
- ◆北海道は直接、沖縄県は沖縄総合事務局長を経由して(公財)日本農林漁業振興会理事長宛てに推薦することができる。

注: ()内の数字は、各局等管内において推薦できる件数(最大)

北海道 沖 縄 (2)	東北局 管 内 (6)	関東局 管 内 (10)	北陸局 管 内 (4)	東海局 管 内 (3)	近畿局 管 内 (6)	中四局 管 内 (9)	九州局 管 内 (7)
-------------------	-------------------	--------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

各地方農政局むらづくり審査会

- ◆都府県の推薦事例について書類審査、現地調査を実施
- ①各ブロック(農政局)ごとに割り当てられている件数の範囲内で農林水産大臣賞を決定
- ②各ブロック(農政局)ごとに決定された農林水産大臣賞の中から最優良事例1件を決定

注: 【 】内の数字は、各農政局ごとに割り当てられている農林水産大臣賞の件数。

①(農林水産大臣賞受賞事例の決定)

東北局 管 内 【3】	関東局 管 内 【3】	北陸局 管 内 【1】	東海局 管 内 【1】	近畿局 管 内 【2】	中四局 管 内 【3】	九州局 管 内 【3】
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

②(最優良事例の決定)

東北局 管 内 1	関東局 管 内 1	北陸局 管 内 1	東海局 管 内 1	近畿局 管 内 1	中四局 管 内 1	九州局 管 内 1
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

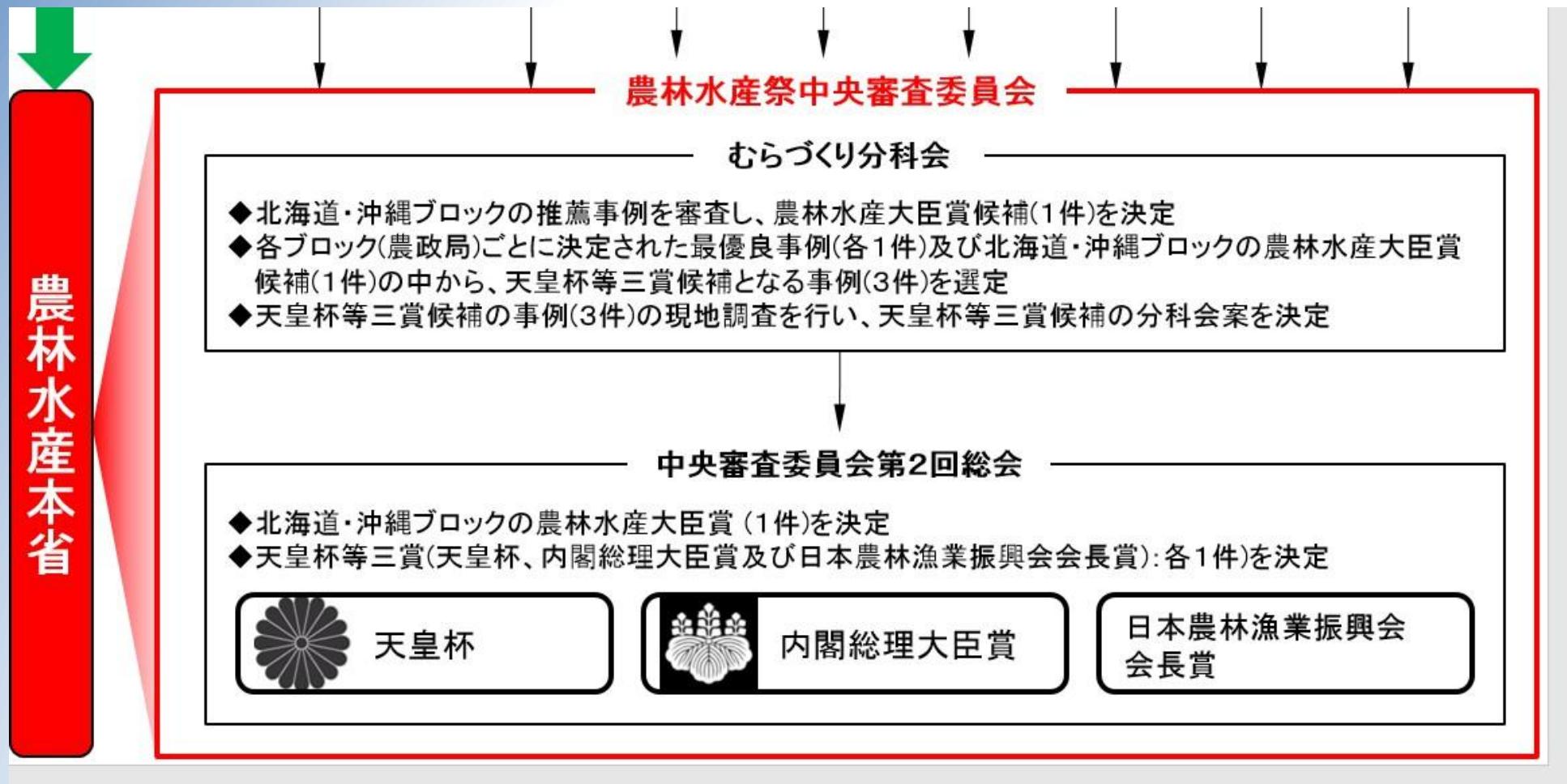
農林水産祭中央審査委員会

むらづくり分科会

都府県

地方農政局

＜中央審査委員会と分科会の役割＞



令和7年度むらづくり分科会

第1回分科会（7月14日）

現地調査（7月30日,8月25日,27日）

第2回分科会（9月10日）



福井県池田町（7月30日）



宮城県南三陸町 (8月25日)



鹿兒島県霧島市 (8月27日)

＜選賞審査基準＞

- ・むらづくりのための**自主的な努力と創意工夫**の状況
- ・むらづくりの**合意形成**の状況
- ・むらづくりの**推進体制の整備・運営**の状況
- ・むらづくりの**地域農林漁業の振興**とその**担い手の育成**への寄与状況
- ・むらづくりの**豊かで住みやすい農山漁村の建設**への寄与状況

入谷の里山活性化 協議会 【評価ポイント①】

☆阿部ンジャーズによる
仲介役と地域の雰囲気づ
くり

Uターン・Iターンの若者や震災ボランティアを入谷地区と結び付けている「阿部ンジャーズ」が中心となり、地域全体が楽しい雰囲気を醸成していることが特徴的。



入谷の里山活性化 協議会 【評価ポイント②】

☆地域のつながりと多世代のバランス

入谷地区の「食・体験・宿泊」を担う団体がそれぞれ「ゆるく」つながり、若者から高齢者までが自分の役割を持ち、無理なく関わり合う仕組みを形成。バランスよくむらづくりを進めている。



YES工房



2000年オープン

東日本大震災

入谷の里山活性化 協議会 【評価ポイント③】

☆受援力（援助を受ける力）の高さと復興事例としてのモデル性

震災時にボランティアを積極的に受け入れた「受援力」が、その後の活性化につながっており、日本全国どこで災害が起きてもおかしくない中、復興や地域再生のモデルケースとなり得る。



出所「南三陸町東日本大震災の記録」(南三陸町)



ボランティアの方々



令和7年度農林水産祭むらづくり部門 農林水産大臣賞受賞事例・位置図

中国・四国ブロック

⑪石原自治区

みんなでワッショイ!!
住みよい石原

(広島県三次市)

⑫石置地区

“美の里”石置を未来へ

(愛媛県内子町)

⑬一般社団法人 三原村集落活動センター やまびこ

元気で楽しい「生きがいづくり」

(高知県三原村)

九州ブロック

⑮幻の高来そば振興協議会

豪渓流の名水が育んだ高来そばを守り
次世代に食べ継いでいくために
(長崎県諫早市)

⑯錦町農産物等直売所出荷協議会

人と地域がつながる・ひろがる未来
(熊本県錦町)

⑯竹子地区コミュニティ協議会

山には竹を里には人を
今日なお生きる竹子共生会の教え
(鹿児島県霧島市)

近畿ブロック

⑩小川地域棚田振興協議会

~棚田で人をつなぐ、
棚田が時代をつなぐ~

(和歌山県紀美野町)



北海道・沖縄ブロック

①伊計自治会

区民が主役の伊計自治会
~住民による住民のための自治運営~

(沖縄県 うるま市)

東北ブロック

②高松第三行政区 ふるさと地域協議会

みんなが主役、みんなで実践!
農村RMOで地域を元気に!
(岩手県 花巻市)

天皇杯

③入谷の里山活性化協議会

海と山の絆で苦難を超えて
次世代にしなやかにつなぐ
(宮城県 南三陸町)

④堀越集落

堀越の未来を守る農業改革
~次世代に「継ぐ」地域づくり~
(福島県 田村市)

東海ブロック

⑨西山の棚田振興協議会

次世代・未来に繋げる
~つなぐ棚田遺産「西山の棚田」~
(三重県 伊賀市)

関東ブロック

⑤株式会社美土里農園

完熟いちごがつくる
人と地域と笑顔の里
(栃木県茂木町)

⑥農事組合法人大田営農

常に新しいことに
チャレンジしながら地域農業を
支える集落営農法人
(埼玉県 秩父市)

⑦おおしの緑地会

独自の活動で「ふるさと愛」を
はぐくみ、だれもが自慢の大篠塚に
(千葉県 佐倉市)

北陸ブロック

⑧農事組合法人 農村資源開発共同体

~山の恵のお裾分け
コムニタに集って語って挑んで~
(福井県 池田町)

農林水産大臣賞受賞事例のうち、

■: 天皇杯受賞

■: 内閣総理大臣賞受賞

■: 日本農林漁業振興会会長賞受賞

令和7年度（第64回）農林水産祭
優秀農林水産業者に係るシンポジウム

「おめでとう」で終わらせないために

祝って終わらせず、次の行動へひらく

私たちはこの受賞を「これまでの歩みへのご褒美」ではなく、むらづくりを学びの場として、次にどうひらいていくのかを問われているものだと受け止めています。



入谷の里山活性化協議会 事務局長 阿部忠義

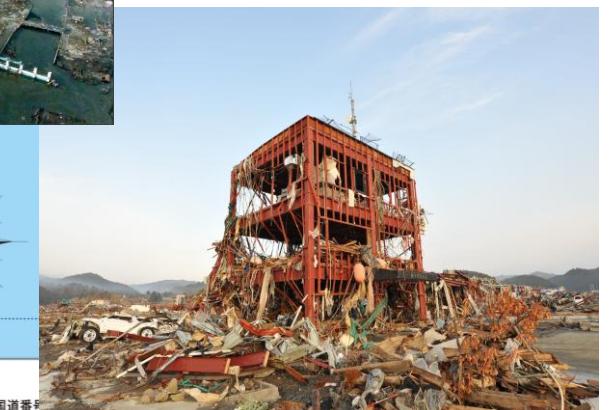
震災直後の動き



発災日から入谷地区が被災地の救援活動に！

大津波の直接的な被害が少なかった山村である「入谷地区」が、地域一丸となって、可能な米や食料、衣料等を持ち寄り、沿岸地域の高台に避難した人々へ応急的な救援活動にあたった。

その後、入谷公民館等が拠点となって、自衛隊や消防隊、ボランティアなど、全国・世界の大勢の方々が来訪し、支援活動や物資調達、炊き出しなど、被災地区とのつなぎ役となつた。



入谷の地域づくり歩み

-  1955年3月 入谷村が志津川町と合併
-  1986年 「入谷を考える会」発足
-  1991年5月 「グリーンウェーブ入谷構想委員会」設立
-  1995年5月 「ひこうの里」オープン
-  2000年3月 「入谷サン直売所」オープン
-  2001年3月 「校舎の宿さんさん館」オープン
-  2005年10月 南三陸町誕生(志津川町と歌津町の合併)
-  2010年11月 第32回「豊かなむらづくり全国表彰事業」 「グリーンウェーブ入谷構想促進委員会」東北農政局長賞受賞
-  2011年3月 東日本大震災発生(沿岸部の支援へ)
-  2011年7月 「YES工房」オープン
-  2011年7月 農園コミュニティ事業「農工房」開始
-  2013年3月 「まなびの里いりやど」オープン
-  2013年4月 「農工房」を軸に恩送りファーム開始
-  2016年11月 「南三陸町里山交流促進会議」設置
(※入谷の里山活性化協議会設立に伴い解散)
-  2021年8月 「入谷の里山活性化協議会」設立
-  2023年11月 第10回ディスカバー農山漁村の宝 「入谷の里山活性化協議会」奨励賞受賞
-  2025年11月 第64回「豊かなむらづくり全国表彰事業」 「入谷の里山活性化協議会」農林水産大臣賞及び天皇杯受賞

約300年続く伝統芸能
入谷のお祭り:入谷打囃子

300年前

1955(S30)年
入谷村が志津川町と合併

70年前

町村合併から30年
1986(S61)年
入谷を考える会

40年前

その5年後全戸加入組織
1991(H3)年
グリーンウェーブ
入谷構想委員会設立

35年前

グリーンウェーブ発足から30年
2021(R2)年
入谷の里山活性化協議会設立

5年前

多様な世代が集い
地域を盛り上げる！



豊かなむらづくりで大切なのは、地域を耕して
“挑戦が芽吹く土壤”を育てることです。

2021 入谷の里山活性化協議会 設立

むらづくり、
ちょっと面白いかも。



学びが循環するむら構想（宣言）

—むらづくりから学ぶ、人間社会のかたち—

むらづくり、ちょっと面白いかも。

- 私たちは、南三陸・入谷のむらづくりを、人がともに生きる人間社会のかたちを学ぶ場と位置づけます。
- 震災という大きな試練を経て、森・里・海の恵みと向き合い、支え合い、役割を分かち合いかながら、このむらは一歩一歩、歩みを重ねてきました。
- その日々の営みの中にこそ、これから社会に必要な知恵と姿勢が息づいていると、私たちは確信しています。
- 私たちは、この南三陸・入谷のむらをひらき、学びの場として、地域の内外に開いていきます。
- 研修や実習、対話や実践を通して、ともに考え、ともに学び、その学びを社会へと還元していきます。
- むらから学び、社会へつなぎ、未来へ手渡す。
- 私たちは、人と地域がともに育つ循環を、この南三陸から、しなやかに育んでいくことを、ここに宣言します。

—入谷の里山活性化協議会—



今、南三陸・入谷は熱いです。

学びが循環するむら構想

むらづくり、
ちょっと面白いかも。

学ぶ、つくる、試す、根づく。
入谷は、学びが循環するむら。

【要点①】このビジョンが目指すこと】

- ・学びを、実践につなげる
- ・実践を、地域で試す
- ・関わりを、むらの力として根づかせる
- ・その営みを、次の学びへ循環させる

【要点②】南三陸研修センターの役割】 学びと実践をつなぐ〈ハブ〉

- ・大学・企業・学校・地域の接点
- ・学び・制作・実践のコーディネート
- ・成果の蓄積と次の挑戦への橋渡し

【要点③】この循環が生むもの】

- ・地域課題を担う人材
- ・新しい仕事・活動・表現
- ・関係し続ける関係人口
- ・自分ごととして関わるむらづくり

【役割分担】

- 入谷の里山活性化協議会：構想・推進・意思決定
- 南三陸研修センター：実行拠点・ハブ機能
- 地域団体・大学・企業：連携パートナー

学びが循環するむら

むらづくり、ちょっと面白いかも。

つくる

モノづくりワークショップ

クリエーター・イン・レジデンス

アーティスト滞在制作

YES工房

農林水産業体験

農工房

探求学習

学ぶ

さんさん館

いりやど

大学・企業研修

リカレント教育

むらづくり
まなびの循環

〈ハブ〉南三陸研修センター

験す

ワーキングホリデー

むらのインターン

デジタルノマド

ひころの里

サン直売所

コミュニティアドバイザー

根づく

関係人口構築

移住・担い手

本ビジョンは、入谷の里山活性化協議会が中心となり、南三陸研修センターを拠点に、地域内外の多様な主体と連携しながら推進していきます。

当協議会の主な取り組み

1.食事メニュー開発

里山ランチ竹皮弁当(地場産物80%使用):R3年度秋913個、春976個販売、R4年度秋1,001個、春959個販売、教育旅行やトレイルなどの団体から毎年受注(500個)、R7甚之丞弁当(500個)の実績、また、ビーガン料理や精進料理、大豆ミートを使ったメニュー、地域の山菜、黒米を使ったメニューなども開発。

2.農体験受入体制整備

農作業・収穫作業体験各種イベント実施、農場整備。継承対策を兼ねて、GTインストラクター等を中心とした実証実験イベントを多数実施。7名

3.宿泊体験受入体制整備

快適なワーケーションを提供、宿泊者のお散歩コース充実化

4.新たな体験学習

モノづくり体験プログラムの造成、教育旅行、木育ツアーや大人数の体験受入が可能にし、年間4,000人の実績。また、若者に人気のあるサウナや、健康志向のファスティングなどのプログラムを開発中。

5.里山フィールド管理

童子山やひこうの里、花見山を整備し、地域団体との連携で体験フィールドの拡充。森林浴プログラム開発、薪割・炭焼きプログラム復活。

6.地域イベントの充実

主要イベントとのコラボレーション実施、地域内関係者と連携して宿泊客UP。

7.事業推進体制づくり

新たなインストラクター等を養成し、プログラムの開発や実証実験などを積み重ねブランディング化。体験学習受入窓口一本化し、観光協会との連携を強化。

主要イベントとのコラボレーション実施、地域内関係者と連携して宿泊客UP。

8.里山文化交流事業

演劇や落語、映画などの本物の文化・芸術に接してもらい、住民の福利厚生を図りながら、文化芸術の意識が高まる里山地域づくりにつなげている。世代間交流活動にもつながっている。地域の経済活動も大切だが、地域住民を対象とした文化活動も、地域づくりにおいては重要である。

活動実績

項目	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025見込	売上推計
食べる	14,000食	15,000食	7,000食	7,500食	12,000食	13,000食	12,000食	13,000食	×平均単価1,000円	
	解説：飲食店・宿の食事提供、竹皮弁当、食のイベント（※竹皮弁当はコロナ対策）								2024売上12,000千円、2025売上13,000千円	
体験する	3,000人	3,000人	1,500人	7,000人	7,000人	4,500人	3,500人	4,000人	×平均単価1,500円	
	解説：農業体験、食の体験、モノづくり体験（R2コロナ影響あり、R3県外→県内シフト）								2024売上5,250千円、2025売上6,000千円	
泊まる	8,800人	9,200人	5,300人	4,500人	7,100人	7,500人	6,600人	7,000人	×平均単価9,000円	
	解説：宿泊施設いりやど、さんさん館の宿泊者の人数（※コロナの影響による減少）								2024売上59,000千円。2025売上63,000千円	
イベント	5,000人	5,000人	500人	700人	2,500人	2,500人	3,000人	4,000人	×平均単価1,000円	
	解説：シルクフェスタ、ひころマルシェ、神社例大祭、秋祭り、農業収穫＆食のイベント								2024売上3,000千円、4,000千円	
産直売上	12,700	12,700	10,500	13,400	12,255	11,919	12,255 千円		創業25年間補助金に頼らず身の丈で営業	

活動の主な変遷

初年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025見込
2011年から農工房と南三陸研修センターが農業による交流事業を始める	農業・体験学習による交流事業を推進。	農業・体験学習による交流事業を推進。	コロナ禍対策のため入谷地区の交流事業者が結束	入谷の里山活性化協議会を起ち上げ農泊事業を推進	実証実験イベント積み重ね、今後につなぐ	あまり補助金に頼らない農泊事業の展開	町補助金を活用し、地域の文化交流事業や体験学習事業を展開	町補助金を活用し、地域の文化交流事業等を継続していく

※2021-2022農山漁村振興交付金（農泊推進対策）活用により協議会の基盤をつくった。

＼約300年続く伝統芸能／



＼入谷を代表する文化施設／＼身の丈に合った持続可能な産直／



＼元祖グリーンツーリズムの宿／



＼体験は年間4～5,000人受入実績／



＼町内外の関係人口増加／



＼研修も年間2～3,000人以上／



＼恩送りファーム約7,000人／



＼まゆ細工文化も大切に継続／



＼コロナ禍の連携で協議会結成／



＼グリーンツーリズム人材育成／



＼新人たちでGT企画挑戦／



＼里山保全活動も活発化／



＼入谷の民話を演劇に／



＼ひころの里で落語会／



＼ディスカバー農山漁村の宝奨励賞／



＼農林水産大臣賞受賞式／



＼天皇杯受賞式／





1995年オープン



2000年オープン



2001年オープン



2011年7月オープン



2011年7月オープン



2013年3月オープン

1995
ひころの里



2000
サン直売所



2001
さんさん館



2011
YES工房



2011
農工房



2013
いりやど



6つの団体に一本の横串を刺して、運命共同体化したイメージ

むらの救世主



協議会会長 阿部國博

ひころの里コンソーシアム会長
グリーンウェーブ入谷構想促進委員会会長
新みやぎ農業協同組合理事
入谷七区行政区長
入谷小学校運営協議会会長
南三陸町総合戦略推進協議会委員
入谷打囃子講役員

協議会副会長 阿部博之

南三陸農工房代表
南三陸町農業委員
南三陸町産業振興審議会副会長
南三陸町和牛改良組合組合長
一般社団法人南三陸研修センター理事
社会福祉法人旭浦会理事長
入谷八幡神社役員
入谷打囃子講役員

協議会監事 阿部勝善

入谷サン直売所組合長
楽農家代表
老人クラブ連合会長
入谷打囃子講役員

阿部ンジャーズは、入谷の里山活性化協議会という仮面を被って、地域を守って、盛り上げていく秘密結社である。
社会は組織がつくるのではなく、人が創っていくものであるという考え方。

協議会事務局長 阿部忠義

一般社団法人南三陸研修センター代表理事
一般社団法人南三陸YES工房事務局長
大正大学地域構想研究所南三陸支局長
南三陸町産業振興審議会会长
南三陸町観光協会副会長
入谷打囃子講役員
オクトパス君の産みの親

地域を耕す土着型秘密結社
阿部ンジャーズ

阿部ンジャーズの仲間たち



鈴木清美

ひころの里管理事務所所長

おもちゃの図書館いそひよ代表
南三陸町障害者自立支援協議会会長
南三陸町社会福祉協議会評議員
結の里運営協議会会長
南三陸高校学校運営協議会委員モアイサポートー



後藤黎亞

グリーンツーリズムコーディネーター

一般社団法人東北GYROs 代表理事
株式会社Plot-d 代表取締役社長
一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所ディレクター
宮城県農山漁村集落情報発信支援員第一号
災ボラLEIA代表 防災士
南三陸町志津川地区まちづくり協議会役員



阿部あい子

さんさん館事務局長

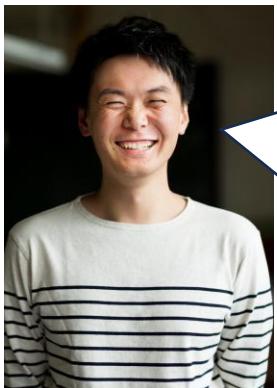
南三陸町農業委員
秘密結社リアスサウス（南三陸カレーの会）主宰



大沼ほのか

グリーンツーリズムコーディネーター

大沼農園代表
南三陸町観光協会理事
南三陸町総合戦略推進会議委員



大森丈広

一般社団法人南三陸Y E S工房代表理事

南三陸町観光協会理事
みやぎ地域づくり団体協議会気仙沼・本吉支部 副支部長
ネーチャーセンター友の会理事
南三陸を化石で盛り上げるHooke'sメンバー

協議会パートナー



ビーンズくらぶ



パン・菓子工房 ouï

☆阿部ンジャーズのミュージックビデオ♪をご覧ください!



12/7天皇杯受賞の祝賀会 200名の参加者で大盛り上がり!



入谷の里山活性化協議会

祝賀会では、入谷民話の演劇やまゆ人形劇、若者による宣言など盛りだくさんの企画の3時間でした。

地域の多くの人を巻き込み、一手間一手間かけた手作りの祝賀会



祝賀会では、入谷民話の演劇やまゆ人形劇、若者による宣言など盛りだくさんの企画の3時間でした。

巻き込みユ ニケーション 大作戦!

地域の多くの人を巻き込み、一手間一手間かけた手作りの祝賀会



入谷の未来は4人の手のひらの中

200人がひとつに。思い出残るダンス

ラストは入谷の祭りの定番

祭りのような祝賀会

農林水産祭むらづくり部門「天皇杯」受賞記念
あっぱれ音頭



皆さんの応援の風を受け、これからも当協議会
は、楽ではない。正解もない。儲からない。
お金もない。ない。……。
それでも。むらづくりを推し進めていきます。

本音は
「ドル箱」
がほしい!
苦笑

ご清聴
ありがとうございました。
入谷の里山活性化協議会



その他の配布資料

・豊かなむらづくり研修

(随時：入谷の里山活性化協議会)

・木育スタッフ養成講座

(2月8日(日)：南三陸Y E S工房)

・入谷の里山盆栽＆木育ツアー

(2月15日(日)：入谷の里山活性化協議会)

・91農業フォーラム in 東北

(2月25日(水)：JA全農)

・地域まるっと中間管理方式勉強会

(3月5日(木)：東北農政局宮城拠点)

豊かなむらづくり研修

—天皇杯受賞の現場から学ぶ、持続可能な地域のかたち—

むらづくり、 ちょっと面白いかも。

“豊かさ”を積み重ねてきた南三陸・入谷。天皇杯を受賞したこの地を舞台に、人と地域がともに育つ仕組みを、体感し、学び、持ち帰る視察・研修プログラムです。

1日目

自然の豊かさ

- ・入谷の里山・集落・探検
フィールドワーク
- ・山・里・海の循環を知る
- ・夜：対話セッション

2日目

人と営みの豊かさ

- ・地域住民との対話
- ・農林水産体験・食体験
- ・チームで気づきを整理

3日目

未来の豊かさ

- ・学びのまとめ
- ・自分たちの現場への応用設計
- ・発表・共有

※このプログラムは、イメージ
プランです。お客様の意向に沿
うように対応いたします。
興味のある方は、気軽にご相談
ください。



入谷の里山ねっと

問い合わせ時に「人数／希望日程／
関心テーマ」をお伝えください。
あなたのご意向に沿うような
プログラムをご用意します。

入谷の里山活性化協議会

[住 所] 〒986-0782

宮城県本吉郡南三陸町入谷字鏡石5-3

[電 話] 0226-25-9501

[メール] t-abe@ms-octopus.jp 事務局 阿部

学びが循環するむら構想×視察受入

この視察は、単なる見学ではなく、
「学ぶ→つくる→試す→根づく→次の学び」を回すための入口です
(現場で再現できる形で持ち帰ることを重視します)。

研修で学ぶ4つの「豊かさ」

自然の豊かさ
里山・資源循環

未来の豊かさ
担い手・学び・循環

豊かなむらづくり
実践研修

人の豊かさ
支え合い・役割分担

営みの豊かさ
生業・仕事・暮らし



要望があれば
阿部ンジャーズ
も参戦します!



※ 豊かなむらづくり 研修をおすすめしたい方々は、
・地域づくり・まちづくり担当者
・行政・自治体職員
・企業の人材育成・CSR・サステナビリティ担当
・大学・教育関係者

【本プログラムの推進体制】

推進主体：入谷の里山活性化協議会

実行拠点：南三陸研修センター

連携：地域団体・住民・大学・企業 等

2026年
2月8日(土)
13:00~16:00

場所
南三陸YES工房第二工場
(旧入谷中学校体育館)

参加料1,500円

木育スタッフ養成講座

つくる前に、 伝え方を学ぼう。

— 木育を「体験」で
終わらせないために —



【第1部】講義 (90分)

木育を「体験」で終わらせないために

— 子どもに届く関わり方の基本 —

- ・木育とは何か
(いま、なぜ人材育成なのか)
- ・木のおもちゃを通して、何を伝えるのか
- ・木育で地域課題を解決する

講師：馬場 清

認定NPO法人 芸術と遊び創造協会
事務局長・副理事長

木育・遊びを軸に、全国で人材育成と
地域づくりを実践。木育講師養成や体験
型学びの仕組みづくりに携わる。

【第2部】実践ワークショップ

つくりながら学ぶ”レクチャーと場づくり

- ・年齢別 木育ワークショップ例を知る
- ・「木育的」ワークショップの内容の決め方
- ・ワークショップのための環境設定とは
- ・振り返りと共有

※完成品づくりが目的のワークショップではありません。

※講義及び実践ワークショップの内容は、変更する場合があります。

講師：吉川美智子

認定NPO法人芸術と遊び創造協会
ウッドスタート推進部

【その他】意見交換 (希望者のみ)

○ お問合せ：0226-46-5153南三陸YES工房

〒986-0782南三陸町入谷字中の町227

参加申し込みは、裏面をご覧ください。



木育スタッフ養成講座

(木育関係者交流企画)

養成講座の対象は…

- ・木育に関わる方・保育・教育・子育て支援に関わる方
- ・地域づくり・森林・木材関係者・将来の担い手など

【養成講座の目的】

木育は、木に触れることだけが目的ではありません。

子どもたちが「感じ、考え、語る」ための関わり方があって、はじめて学びになります。

本講座では、木育の第一線で活躍する講師を迎える、子どもへの声かけ、レクチャーの組み立て方、安全配慮、場づくりのコツを実践を通じて学びます。

FAX申込用紙 (F) 0226-46-5157

【宛 先】	【件 名】	【送 信 日】
南三陸YES工房 木育担当: 阿部忠義 E-mail: t-abe@ms-octopus.jp FAX:0226-46-5157	木育スタッフ養成講座	令和 8 年 月 日 所属長 職名 氏名

所属名	連絡先電話番号	担当者氏名	
出席者(参加者)			
○印	職名	氏名	備考

※2月5日(木)までに報告願います。添書不要です。記入欄が足りない場合は複数書きしてください。

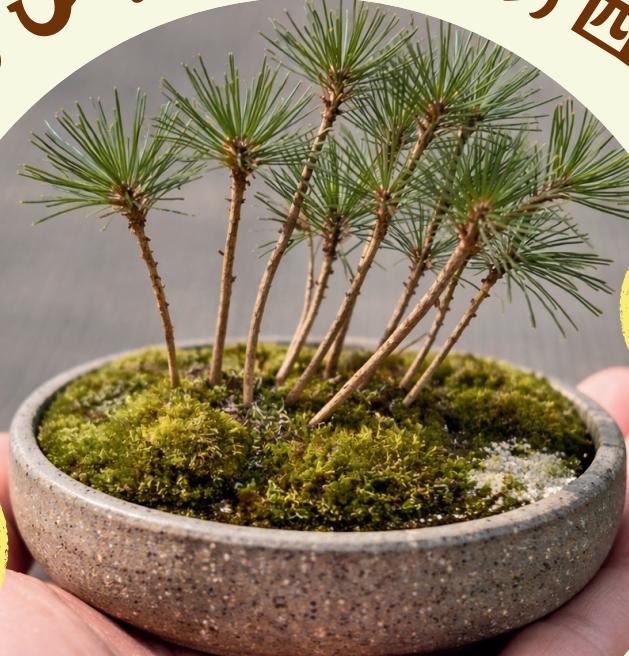
YES工房では、木工教室や出張木育ひろば、木育LABなど、様々なワークショップを開催し、木育機能を高めようとしています。本講座は、木育充実に向けた人づくりの第一歩です。地域の木、地域の人、そして子どもたちをつなぐ担い手を育てることが、これから木育の土台になると想っています。皆さんも一緒にチャレンジしてみませんか?

南三陸
めんこい盆栽
プロジェクト
実証実験

手のひらに、里山の四季。

自然が
手のひらに

森で出会った
自然を
暮らしへ



入谷の里山

盆栽＆木育ツアーア

2026

2月15日(日)

当日の流れ（予定）

- ・ 9:45 集合：YES工房第二工場（旧入谷中学校体育館）／ガイダンス
- ・ 10:30 山林：自然観察／樹木の苗・苔の採取（最小限）／落枝拾い
- ・ 11:30 昼食：ロケットストーブ等で野外炊飯
- ・ 13:00 work1：手のひら盆栽づくりワークショップ
- ・ 14:00 work2：木製皿づくりワークショップ（磨き・塗装）
- ・ 15:00 ふりかえり：交流・片付け
- ・ 15:30 解散
- ・ 持ち物 防寒具／雨具／歩きやすい靴／軍手／飲み物（必要に応じて）

お申込み・お問合せは

【参加費2,000円】

入谷の里山活性化協議会 ☎0226-25-9501

南三陸 めんこい盆栽プロジェクト構想

森で出会った自然を、暮らしへ。

南三陸町・入谷の里山で見つけた苗木や苔、落枝などを活かし、

手のひらサイズの「めんこい盆栽」をつくる取り組みです。

自然観察とものづくりを通して、里山の魅力を次の世代へつなぎます。

プロジェクトのねらい

- ・里山の四季を感じる体験づくり
- ・森の資源を大切に使い、整備・保全へ
- ・地域の手仕事と交流を育てる
- ・将来は高齢者が無理なく関わる仕事へ

活動の流れ（例）

- ・森を歩いて自然観察
 - ・苗木・苔・落枝の採取（必要最小限）
 - ・手のひら盆栽づくり
 - ・ふりかえり・交流
- ※ 表面のツアーは本プロジェクトの実証実験です。

将来のしくみ：高齢者の「小遣い稼ぎ」につながる形へ（構想）
実証実験で、作業量・品質・価格・販路を検証し、無理のない分業と還元の仕組みを整えていきます。

① 素材を育てる

苗の育成 / 苔の増殖 / 器や木製皿づくり。
家でできる作業を増やしていきます。

② つくる・育てる

盆栽の組み立て / 剪定・水やり / 状態チェック。
講習とキットで無理なく。

③ 卖る・届ける

直売所・イベント・オンライン等で販売。
売上の一部を作り手へ還元。（構想）

※ 森の資源は採りすぎないよう配慮し、自然に負担をかけない形で進めます。

興味のある方はお問合せください。

- ・ツアー / ワークショップに参加したい
- ・盆栽の育て手・作り手として関わりたい
- ・販路や出店場所の紹介 / 企業・学校向け相談
- ・試作品の購入・予約（構想）

※本プロジェクトは実証実験につき、要望に応えられない場合もありますのでご了承ください。

入谷の里山活性化協議会
☎ 0226-25-9501



農業と、もっと、つながるあしたへ。

91農業フォーラム in 東北

～あなたも農のパートナーに! 地域を支える新しい関わり方～

「91農業(きゅういちのうぎょう)」とは

「91農業」は生活の中の少しの時間、週末の休暇、都合の良い日に、都合の良い場所で、いま働く場を求めている人と、働き手を求める農家を繋げる新たなライフスタイルです。

2026年 2月25日 水

開演/13:00~16:30(開場12:00)

会場/AER 5階 仙台市中小企業活性化センター
多目的ホール

宮城県仙台市青葉区中央1-3-1

入場無料

※事前申込制

お申込み方法はウラ面をご覧ください。
楽しい抽選会も開催いたします!



(元プロサッカー選手)

特別講演 中田 英寿 氏

テーマ/「農業の魅力と可能性について」

～自身の経験を交えた農業労働力支援への呼びかけ～

中田 英寿氏プロフィール／元サッカー日本代表選手。2006年の現役引退後、2009年より全国47都道府県を巡り、酒蔵、農家、工芸家など日本の伝統文化・産業を発信する「にほんもの」PROJECTを推進。2015年にJAPAN CRAFT SAKE COMPANYを設立し、日本酒・日本茶を軸に、ブロックチェーンやデジタル技術を活用して伝統産業の価値を世界市場へ届けている。2025年には農水省と連携し「農業×スポーツ」プロジェクトにも取り組む。



聞き手/小谷 あゆみ 氏

農業ジャーナリスト/フリーアナウンサー

小谷 あゆみ氏プロフィール／石川テレビ放送のアナウンサーを経てフリーに。全国の農業・農村を取材する傍ら、野菜を作るアナウンサー「ベジアナ」として農ライフの楽しさを発信。YouTube「全農ストーリー」に出演中。



91農業フォーラム in 東北

～あなたも農のパートナーに!地域を支える新しい関わり方～

近年、地方の人口減少や高齢化が著しく進んでおり、各地域では労働力の不足が喫緊の課題となっています。本フォーラムでは、国産の食や農に関わりの深い著名人からの呼びかけや、全農とパートナー企業が連携して取り組む「農業労働力支援事業」の事例を共有し、参加者の方々が「自分たちも地域農業の“新しいパートナー”として貢献できる可能性がある」と感じてもらえる機会を創出することを目的としています。さらに、本フォーラムでの議論や各種メディアを通じた情報発信を通して、農業労働力支援の取組みが安定的な農業生産につながることを広く一般消費者にも理解してもらい、地域農業の“パートナー”として参画していただききっかけづくりとすることを目指します。

プログラム

13:00～13:10	開会挨拶	
13:10～13:30	情勢報告	・農業労働力不足の現状と91農業の取組みについて ・東北6県における労働力支援の取組紹介
13:30～14:20	特別講演	テーマ:「農業の魅力と可能性について」 ～自身の経験を交えた農業労働力支援への呼びかけ～ 登壇者:中田 英寿氏(元プロサッカー選手) 聞き手:小谷 あゆみ氏(農業ジャーナリスト/フリーランサー)
14:30～15:00	事例報告	・東北における農作業支援/日本航空(株) ・福島県北部地区郵便局との連携による農作業支援/JAふくしま未来 ・兵庫県での農作業受託事業/(株)そうしんアグリ
15:00～16:00	パネルディスカッション	テーマ:「地域農業を支える連携の在り方」 登壇者:事例報告者3名、全農県本部職員 コーディネーター:小谷 あゆみ氏
16:10～16:15	クロージングメッセージ	
16:15～16:25	抽選会	プレゼント抽選
16:25～16:30	閉会挨拶	

JA全農グループの商品などが当たる抽選会も開催いたします!お楽しみに!

[お申込み方法] ※定員を超えるお申込みがあった場合は抽選となります。

入場無料

事前申込制

お申込み締め切り

2026年2月13日(金) 正午まで

お申込みは
こちらから→

お問い合わせ先

JA全農 耕種総合対策部 東北営農資材事業所 TAC・生産対策課(岡本・小笠原)
Tel. 022-721-1571 (受付時間/平日10:00~16:00)



主催

・JA全農 耕種総合対策部 東北営農資材事業所
・東北ブロック労働力支援協議会

後援

・農林水産省 東北農政局
・東奥日報社・秋田魁新報社・岩手日報社・山形新聞社・河北新報社
・福島民報社・福島民友新聞社
・農林中央金庫 東北営業部



次世代へ繋ぐ、私たちの農地
地域が主役の継続モデルを考える

地域まるっと中間管理方式勉強会

開催日時

令和8年3月5日 (木)
13:30~15:30

開催方法

オンライン開催
(MS Teams使用)

参加対象

県・市町村・JA・土地改良区の
担当者・集落代表者・担い手
農家・地域計画や集落営農に
かかわる皆さん、中山間地域の
担い手不足に悩む皆さん

開催目的

地域まるっと中間管理
方法について知り、具体的
的事例を学び、地域の
農地を守る検討の一助
として頂く

地域まるっと中間管理方式とは

地域を一般社団法人として設立し、営農部門と地域資源管理を担う方式です。出し手はもちろんのこと、担い手、自作希望農家の農地もみんな地域まるっと中間管理機構が借り受けます。地域が設立した一般社団法人が中間管理機構から、まるっと農地を貸し付け。一般社団法人は耕作者のいない農地の直接経営を行うとともに、まだ耕作できる担い手、自作希望農家には、特定農作業受委託を締結し、従来どおり耕作を続けてもらいます。

講師：魅力ある地域づくり研究所
代表 可知 祐一郎氏

講師の主な職歴等
1982年 愛知県に奉職。

(食育推進課長、農業総合試験場副場長、技監を歴任)
2015年 退職(2005年に「生産構造分析」を提唱)
2015年6月 愛知県農業振興基金(県農地中間管理機構)理事
長就任
2019年6月 退任(2017年に「地域まるっと中間管理方式」を提唱)
2019年7月 魅力ある地域づくり研究所を設立、代表就任



参加の申込は以下の
QRよりお願いします。
申込締め切り
令和8年2月27日



お問い合わせ先は
こちらまで

東北農政局宮城県拠点
仙台合同庁舎6階
仙台市青葉区本町3丁目3番1号
TEL: 022-221-6404
担当者: 青田、片桐

岩手県内の地域まるっと中間管理方式 活用実績（6地域）

- ・一関市（かじかの里下内野）
- ・奥州市（いであい）
- ・滝沢市（アグリサポートおおさ輪）
(うかい結ファーム)
- ・紫波町（里地里山ネット漆立）
- ・西和賀町（大野もっこりの郷）

岩手県

山形県

山形県内の地域まるっと中間管理方式 活動実績（2地域）

- ・山形市（南山形お互いさま会）
- ・飯豊町（ふあーむなかつがわ）



東北地域管内で導入のある地域

福島県内の地域まるっと中間管理方式 活用実績（9地域）

- ・喜多方市（別府地区）
- ・西会津町（百松）
- ・磐梯町（ライステラス大谷）
(入倉地区)
- ・泉崎村（原ドリームコミュニティ）
(踏瀬70ファーム)
- ・石川町（石川結い農会）
- ・平田村（北屋敷ドリームファーム）
(上北方地区)

福島県